

飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

第 300 回 やぶにらみ「花粉症経済論」

2009.3.1

いよいよ本格的シーズンが来た...といえば「花粉症」！花粉症の患者数は推定で約 2,000 万人と
言われている。つまり、国民の約 6 人に一人は花粉症の症状を持っていることになる。(4 人に一人との
最新データもある) これだけ多くの方が悩まされている花粉症は、もはや「国民病」と言えるだろう。
(残念ながら小生、この仲間ではないのだ)

花粉症に関連する費用も膨大な額に上ることが推測される。患者にかかる年間医療費は約 2,860
億円、仕事がかどらないなどの労働損失は年間約 650 億円と試算されている。また、2005 年の文
部科学省の調査によると、1~3 月期の経済損失(娯楽費、外食費、食糧費の減少)が数千億、一
方、経済効果(マスクなどの花粉グッズの売上)が約 1,000 億円といわれており、損益ベースでみて
みると明らかに経済損失のほうが多く、花粉症による日本経済への影響は少なからずあるようだ。

例えば...花粉症による仕事などの生産性の損失を金額に換算すると 1 日平均 5,949 円、コンタッ
ク総合研究所が昨年末に行った意識調査で、そんなユニークな数字が明らかになった。「仕事の効
率が落ちることによる生産性の低下」が 72.5%と最も多く、「ティッシュの使用による環境資源の消
費」が 50.9%とこれに続いた。さらに、仕事などの生産性の低下による損失を金額で表すと 1 日当
たりいくらになるかとの問いでは、平均金額では 5,949 円となった。回答者の最高額は 100 万円(30
歳代女性)で、その理由は「自分が 1 日に使うティッシュの量がとても多いから」だった。また、花粉
症の人が 1 日に消費するポケットティッシュの数は平均 4.2 個で、同研究所では「春の花粉で苦しむ
のが平均 46 日間とすると、春だけで 193 個ものポケットティッシュが消費され、その分ごみも普段より
多く出ていると考えられる」と分析している。このほか、「取引先との大事なプレゼンで、何分鼻をかん
だり、目薬をさしたりせずに我慢できるか」との質問では、「10 分以上 30 分未満」が 44%と最多で、
30 分以上我慢できない人が半数以上だった。

花粉症による睡眠不足も問題である。花粉症シーズン中の 1 日の睡眠時間は、そうでない時期に
比べて平均 1.2 時間短くなることが、製薬会社「グラクソ・スミスクライン」が行った「花粉症と眠りに関
する調査」で明らかになった。さらに、「花粉症時期はそうでない時期と比べて寝つきが悪くなる、もし
くは眠りが浅くなると感じますか」との質問では、「ある」が 44.2%、「たまにある」が 43.2%で、全体の 9
割近くが花粉症による睡眠障害に悩んでいることが明らかになった。

最後に、「将来、子どもが花粉症で苦しまないようにするためにはどうすればよいか？」理化学研究
所免疫・アレルギー科学総合研究センターの谷口克センター長による「花粉症にならないための 9 か
条」。詳細な理由は皆さんに調べてもらうとして、とりあえず紹介する。

生後早期に BCG を接種させる 幼児期からヨーグルトなど乳酸菌飲食物を摂取させる 小
児期にはなるべく抗生物質を使わない 猫、犬を家の中で飼育する 早期に託児所などに預け、
細菌感染の機会を増やす 適度に不衛生な環境を維持する 狭い家で、子だくさんの状態で
育てる 農家で育てる 手や顔を洗う回数を少なくする 以上 9 か条。(ホントかいな??)

色々な意味で花粉症の持つ影響力は大きい。今後も患者数が増加傾向にあり、花粉症といえど
も、決してあなどれない病気と言えるだろう。(お気の毒様)